



詩篇27篇

27 (詩18:)

27(4)22: (詩18:)

27(5)16:18:19
出エ33:13
申32:4

1 主は私の光、私の救、私はそれを恐れよう。
2 主は私の命のとりで、私はそれを恐れよう。
3 私の敵、私の敵、ある悪を行なう者が、襲って来て、私をそしり、私を攻めるとき、彼らはつまずき倒れるであろう。
4 たとい軍勢が陣営を張って、私を攻めても、私の心は恐れない。
5 たといくさか起つて、私を攻めても、なお私はみずから頼むところがある。
6 私は一つの事を主に願った、私はそれを求める。
7 私の生きるかぎり、主の家に住んで、そのうらわしきを見、その宮で暮らさねばならない。
8 それは主が惱みの日に、その幕屋のうちに私を潜ませ、その幕屋の奥に私を隠し、
9 岩の止ば私を高く置かれるからである。
10 今私のこゝべは私をめぐる敵の止ば高くあげられる。
11 それゆゑ、私は主の幕屋で喜びの声をあげて、いけにえをささげ、歌つて、主をほめたたえるであろう。
12 主よ、私が声をあげて呼ばるとき、聞いて、私をあわれみ、私に答えてください。
13 あなたは仰せられました、
14 「わが顔をたずね求めよ」と、
15 あなたにむかつて、私の心は言います、
16 「主よ、私はみ顔をたずね求めます」と。
17 怒つてあなたのしもべを退けないでください。
18 あなたは私の助けです。
19 わが敵の神よ、私を追い出し、私を捨てないでください。
20 たとい父母が私を捨てても、主が私を迎えられます。
21 主よ、あなたの道を私に教え、私のあだのゆゑに、私を平らかな道に導いてください。
22 私のあだの望むがままに、私を引き渡さないでください。
23 偽りのあかしをする者が私に逆らつて起り、暴言を吐くからです。
24 私は信じます、
25 生きる者の地で私は主の恵みを見ることを。
26 主を待ち望む、強く、かつ雄々しくあれ、主を待ち望め。

申31:3-4

申31:6

1 申22:13, 28:20
父セテカヨモヤ

2 申7:17

申31:17-18

31:11

天の

2 申6:20-21
詩18:7

1 申17:

申31:12-13
主を恐るべきなり。

幕屋、顔

7-10

1-3

敵から救、強くあり、信じています。

申10:12

捨てる

11-14

4-6

主を恐る、強くあり、信じています。

申10:12

主を恐る、強くあり、信じています。

詩篇27篇を見てきました。

4つの段落に分けられると思います。2つの詩篇が組み合わさっているみたいに見える場合があります。その場合は、1から6と、7から14と分けているようです。1から3、4から6、7から10、11から14という4つに分かれていると思います。

同じ言葉を繰り返し出てくるのを見てください。「たずね求める、幕屋、生きる、いのち、恐れること、敵、救い、隠す、隠される、捨てられる、見捨てられる、顔、立ち上がる、待ち望む」というようなキーワードがストロング番号だとあります。(詩篇27篇には)「救い、誰を恐れるのか、恐れない、恐れませんが、幕屋に住まうこと、御顔を求めること、そして道を教えてください」。この「強くあれ、雄々しくあれ、主を待ち望む」という言い方がありますので、ヨシュアのところを思い出してください。

外側(1-3,11-14)のところは、「恐れませんが、強くあります、敵から救ってください、信じています、信頼しています」という共通点があります。真ん中(4-6,7-10)は「幕屋、幕屋、幕屋」ということと、「御顔を求める」と書いてありますが、この「御顔」は神殿のところに来るとい話ですから、「幕屋、御顔」という共通点があると思います。

最後に分析していくとわかりますけれど、前半(1-3,4-6)の2つは「主が共にいる」。後半(7-10,11-14)は、「捨てないでください」「捨てないでください」ということで、共通点になっていると思います。

特に申命記31(詩27:1)、31(詩27:8)、31(詩27:9)、31(詩27:10)、31(詩27:14)と申命記31章がいろいろ思い出されるところがあります。歴代誌(詩27:14)、歴代誌(詩27:7)、歴代誌(詩27:4)と、歴代誌のところを思い出されるところもあります。

モーセの歌とダビデの歌、アブラハムの契約とダビデの契約というものでいうと、ヨシュアがカナンの地にいよいよ入って行きますという相続するところの、申命記31章。ソロモンに働きを相続する第1歴代誌22章、28章あたり、それと幕屋が作られるところ。こういうところが特に引用されているところだと思います。

申命記31章、第1歴代誌22章という箇所「強くあれ、雄々しくあれ」とあるわけです。この申命記の箇所を思い出して、ダビデがソロモンに…ということですので、「強くあれ、雄々しくあれ」が申命記と歴代誌にあるということです。この中(申命記31章)に「強くあれ、雄々しくあれ、恐れるな、おののくな、主が共におられる」。そして、「見放さず、見捨てない」とありますけれど、「見放さず、見捨てない」というところで、(詩篇27篇9節には)「わが救いの神よ、私を追い出し、私を捨てないでください」と言っているのは、「私は捨てない」と言っているところに訴えているということです。申命記31章6節と8節にもう一度あります。「主が共におられるので、見放さず、見捨てない、恐れるな」ということ。それで、「(詩27:1)恐れるな」という出だし、「(詩27:9,10)見捨てない」ということ。

それと、「わが顔をたずね求めよ」という言い方がここ(詩27:8)にありますよね。「御顔をたずね求めます」と言って、「御顔を隠さないでください」という言い方がありますが、「わが顔をたずね求めよ」は、ダビデが契約の箱を持ってきた時の第1歴代誌16章の歌のほうですね。そこで、「主に感謝して御名を呼び求めなさい」の中ですね。「主を慕い求める者の心を喜ばせよ。主とその御力をたずね求めよ。絶えず御顔を慕い求めよ」と契約の箱が入ってきたところで歌いますけれど、「絶えず御顔を慕い求めよ」というのは、「(27:8)み顔をたずね求めます」と同じことばです。慕い求めるのは、宮で慕い求めます、たずね求めますということばが同じなのですけれども、み顔をたずね求めるというのは、契約の箱が入ってきた時に、神様の御顔の光の中で神様を求めているという言い方ですので、そう言われましたから、それを求めていますと。

御顔を求めているのはなぜかという、申命記31章に戻ります。モーセのところを見ると、「いよいよ私は120歳で相続のときですよ、働きの相続のときですよ」と言っているところに、モーセが7年の終わりごとに免除の年、仮庵の祭りのときにこうしなさいと言っている箇所ですね。「(申命記31:11)主の選ぶ場所で、あなたの神、主の御顔を拝するために来るときに」。祭りに来るということは、主の御顔を拝するために来るという別の言い方のような感じですね。その時に「主の道を教えなさい」ということですね。主の道を教える。その主の道は、主を恐れ、このみ教え、この道を歩むためであるということが、ここで言われています。それで、主の御顔を拝するために来るときに、主を恐れて主の道を歩みます。そうすると、神様はここで会ってくださるのですね。それで、契約の雲が来て入り口にとどまりました。しかし、その子どもたち、次の世代は民が私を捨てて、契約を破るならば、怒りが燃え上がる。」恐ろしい神様ですからね。恐ろしい神様になる。「そうすると、私も彼らを捨てて、私の顔を彼らから隠す。苦難が降りかかる。ほかの神々に移っていった悪のゆえに、必ず私の顔を隠す。」この「顔を隠す。御顔を拝するために行く」場所と、神様が怒ると「顔を隠す」ということです

ので、「御顔をたずね求めよ」、「御顔を隠さないでください」と言っているのが申命記31章のところが裏にある。引喩しているところだということがわかると思います。

神様のところに来て主の選ぶ場所、主が選んでくださった主の家に来て祈る時に、神様がその祈りを天で聞いて答えてくださる。天で聞いて答えてくださるので、この27篇7節ですね。聞いて応えてください、叫ぶ時に聞いて応えてくださいと言っているのが、神殿、幕屋に来て祈るときの言い方になっています。第2歴代誌6章のソロモンが神殿を建てたときに祈る祈りの中に、「天でこれを聞いて、天でこれを聞いて赦してください、憐れんでください」ということを何度も言いますよね。申命記の言い方を使って、歴代誌でも祈っている。この御顔をたずね求める、御顔を隠さないでください、捨てないでくださいと。捨てないと約束してくださった神様だからです。

それで、その家、幕屋に住みたいのだということを願っているのが、歴代誌でいうと16章の幕屋が入ってきた祈りのあとに、「いよいよ天幕が来ましたから、神があなたと共におられるから、どうぞやってください」とナタンが言うのですが、そこで、家を建てたいということを神様に頼むということが17章に続いているわけです。それで、ソロモンがその目的を果たすのですが、主があなたのために家を建ててくださるということを求めていますので、生きる限り家に住みたいということを求めている。主の幕屋で感謝の歌を歌う、喜びの歌を歌いたいのだということが言われているところです。16章と17章みたいな感じですね。ヨシュアにモーセが「強くあれ、雄々しくあれ」と言ったように、ダビデがソロモンに「強くあれ、雄々しくあれ」という言い方をするところがありますね。

同じように…(第1歴代誌23:1)いよいよダビデも年をとりました。それで、相続しなければなりませんということになります。ダビデは老年を迎えて、ソロモンを王にしますというところの中に、家を建てる働きを相続してください。ソロモンを選びましたという中に、第1歴代誌28章20節「強く雄々しくあつて、ことを成し遂げなさい。恐れてはならない。おののいてはならない。主と共にいるからだ。主はあなたを見放さず、見捨てない。だから、この仕事を完成させなさい。」ということ、28章のところで言います。

主の道、主を恐れ、主の道に歩むことを神様は求めておられる。主と共にいてくださる。決して見捨てることはありません。恐れなくて、神様の家、神様の御顔を求める、神様と共に歩む。神様に守られて、神様と共にいることを喜び歌う。これを求めて歩むようにという主を待ち望んで、強くあれ雄々しくあれの箇所を少し長く説明してくれているというのが、この詩篇、27篇だと思います。